

# コロナ対策第4弾 予防接種の無償化

9月議会の議案に一般会計補正予算(第6号)があり、「新型コロナウイルス感染症対策 緊急政策パッケージ(第4弾)」の予算が計上されています。

主なものの概要を紹介します(詳しくは市のホームページをご覧ください)。

## ①インフルエンザ予防接種の無償化:5,700万円

コロナとインフルエンザの同時流行に伴う医療の混乱と重複感染による重篤化を防ぐため、高齢者などに対し予防接種費用の全額無償化

## ②学校給食休止時の食材費等の損失補助:200万円

学校臨時休業期間における給食休止への対応として、食材納入事業者に対し、すでに発注されていた食材費等に係る損失に関して補助(3月分のみ)

## 修学旅行のキャンセル料を全額補助

## ③修学旅行のキャンセル料の全額補助:776万円

小中学校が実施を予定している修学旅行をコロナの影響で中止または延期した場合のキャンセル料等について保護者に全額補助

## ④高圧蒸気滅菌器等の衛生資材の確保:3,000万円

小中学校で行う健康診断や幼児に対する健康診査等で使用する器具を滅菌するオートクレーブ(高圧蒸気滅菌器)の購入を行うとともに、保育園、幼稚園等で使用するマスクや消毒液等の衛生用品を購入

## ⑤会計年度任用職員の緊急雇用:464万円

新型コロナウイルス感染症の影響による雇用の喪失に対し、緊急雇用対策として会計年度任用職員(5人)を任用

この議案は9月議会で審議され、議会最終日(25日)に採決されます。

## 9月議会の主な日程

7日 本会議(議案質疑)	14日 教育民生委員会
8日 本会議(議案質疑、一般質問)	15日 総務委員会
9日 本会議(一般質問)	17、18日 予算決算委員会
10日 本会議(一般質問)	25日 本会議(閉会)
11日 産業建設委員会	

提案されているすべての議案を市議会のホームページをご覧ください。

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2020年 9月 6日 発行 No. 255

## こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は 電話、FAX 0595-82-3646

E-mail kouki.gjin@gmail.com 市議団ホームページ 「共産党 亀山」で検索を

## 9月は決算議会

## 貯金が年々減少 黒字だと喜べない

安倍首相が辞意一突然のニュース。7年8ヶ月間に、戦後培ってきたものがいづつも壊された。その最たるものが安保法制。9割を超える憲法学者や多くの国民が憲法違反と批判する中で強行した。「長さ」と同時に歴史に残る出来事だ。

さて、9月議会は決算議会です。2019年度の決算を十分に審議し、来年度以降の予算編成に生かすことが大事です。2019年度の一般会計の決算は、「実質収支は6億5,357万1千円の黒字」と書いています。この「実質収支」とは、歳入決算額(収入)から歳出決算額(支出)を差し引きした額のことですが、よほどのことがない限り黒字になりますのでこれはさほど重要ではありません。

## 10年間で実質の黒字だったのは1回だけ

問題は、「実質単年度収支」の赤字額が前年度の約5億円から約10億円へと大きく増えたことです。この「実質単年度収支」は例えば、「実質収支」が6億円の黒字であっても財政調整基金(貯金)を10億円取り崩していれば、それを歳入から除きますので実質的には4億円の赤字です。

このように「実質単年度収支」は、「真の自治体の実力」を見るもので、それが黒字だったのは過去10年間で1回しかありません。

## 予算が組めなくなるほどの貯金しかなくなる恐れ

「決算カード」で過去10年間の決算を見ると財政調整基金の残高は、2014年度までは約45億円を維持していますが、それ以降年々減少し2019年度の決算では28億円に減少しています。2014年度頃までは予算編成時に貯金を取り崩しても年度末には何とかもとに戻すということができましたが、ここ数年は貯金を年々減らしています。

今年度はコロナ対策で貯金を崩し、来年度以降はコロナ禍で税収減などが予想されますからますます厳しくなります。「黒字だ」と浮かれてはいられません。

# 中学校給食の署名が7千筆を超えた！

亀山中学校と中部中学校で、みんなで食べる給食の早期実施を求める「亀山の学校給食を考える会(じゃがまる会)」の署名が2ヶ月余で、7,182筆(8月27日現在)に達したとのことです(じゃがまる会の報告文)。

亀山社会保障推進協議会が今年初めに市長に手渡した「タクシー券の継続を求める署名」が1ヶ月余で4,380筆でしたからそれをはるかに上回るすごい署名数です。

## 「未だに実施されていないことに驚いた」の声

じゃがまる会の報告文では、署名活動を通じて市民から寄せられた意見が紹介されています。「小学校の給食はとてもおいしい。同じ給食を中学校でも」、「以前から中学校給食を求める署名が行われていたが、未だに実施されていないことに驚いた」、「デリバリーかお弁当しか選べないので、仕方なくお弁当を頑張って作っている。本当は給食の方がいい」、「関中学校の給食とデリバリー給食は小学校と同じように市から税金を使った補助があるのに、お弁当を持参している家庭には補助がないのは不公平」などなど。

## 市教育長に署名を提出し、市議会にも請願書を提出

「じゃがまる会」では8月末まで署名を集め、9月4日に市教育委員会教育長に署名を提出するとともに、市議会へも『亀山中学校及び中部中学校において、「みんなで食べる給食」を早期に実施』することを求めて請願書を提出しました。

この請願書は、9月14日に開催予定の教育民生委員会で審議(採決)され、議会最終日に採決される予定です。議会の議論に注目です。

## タクシー券 市に相談し交付に

『こうきの議会報告』や市議団ニュース(いきいき亀山)で、タクシー券の交付について「まだまだ交付される人はいるはずだからぜひ市に相談を」と呼びかけてきました。

先日、それを読んで市に相談した人から電話をもらいました。結果的には、市の担当者が自宅に来てくれ、状況を把握し交付になりました。「タクシー券はもう無理」などと思わずに、ぜひ市へ相談に行ってください。

# リニア工事 遅れは静岡の水だけではない

リニア工事については静岡県の水問題が大きく取り上げられ、そこだけが遅れているような報道ですがこれは事実ではありません。沿線各地で様々な問題が起きており、工事が遅れているのが実態です。

リニア南アルプストーンネルの長野県側の起点、下伊那郡大鹿村では、7月の豪雨で集落に続く道路で地滑りが起きています。この集落の下方に南アルプストーンネルの掘削起点が2か所あり、そこに至る道路も不通になっています。

このように7月の豪雨で、静岡県や長野県内でリニアの工事現場に通ずる道路が不通になっているのです。このため、非常口、変電施設、橋梁などの工事が遅れ、見通しも立っていません。

## 沿線各地で残土処理が難航

さらに大きな問題として「残土処理」があります。リニア新幹線は、9割近くがトンネルになるため、大量の残土が発生します。長野県大鹿村内だけで300万<sup>m</sup> (東京ドーム24個分)とも言われる大量の残土処理をしなければならず、遅れの大きな原因です。村内の残土置き場はどこも10万<sup>m</sup>以下の小さなもので、平地が少ないのでその数も限られています。

当初、村外の残土置き場は谷を埋めて造成する予定でしたが、下流住民の反対でとん挫したり、地元住民との調整に手間取ったりしています。長野県南部の伊那谷では、1961(昭和36)年の「三六災害」(豪雨による土石流などで死者302人など甚大な被害)で各地が被災し、その経験が共有されているのです。

また岐阜県御嵩町みたげちようでは、自然由来のカドミウムやヒ素といった重金属を含む「要対策土」(残土)が持ち込まれるということで問題になっています。

このように残土処理は沿線各地で未解決の大きな問題になっています。

## 大幅な減収と合わせ実現性が難しくなっている

リニア工事の現場は山間部にあり、土砂災害などの被害に遭うことが多く、道路や非常口、変電施設、橋梁などの建設の遅れやトンネルなどを掘って生ずる膨大な残土の処理など未解決な問題が山積みです。

マスコミでは静岡県の水だけが問題のような報道ですが、それ以外にも工事の遅れや未解決の問題が沿線各地であるのです。

JR東海の大幅な減収と合わせ実現性が難しくなっているという事態が進行しているのです。